



日進北小だより

令和3年4月28日 5月号 第2号
電話 048 (663) 1842 FAX 048 (663) 9884

<http://nisshinkita-e.saitama-city.ed.jp/>

学校教育目標：心身ともに健康で、自ら学び、自ら考え、判断し、行動できる子どもを育成する
～さらに、日本一 すてきなあいさつ 日北っ子～



さいたま市誕生20年に想う

校長 平塚 信也

「校長先生、子どもの力ってすごいですね。子どもは子どもの言うことだとすんなり受け入れるようですよ。」毎朝、旗振りをしてきている学校地域連携コーディネーターの鈴木先生が私に教えてくれました。いつも登校後通学班が解散したあと、ひとしきり砂場で過ごしてから校舎に入る1年生A君がいます。先日の朝、お母さんと一緒に1年生B君が登校しました。その日はなかなかお母さんと離れがたかったようでB君は泣いています。するとA君はB君の側にいき、「僕だって行くのを悩んだりすることあるよ。泣くなよ。大丈夫だよ。元気出して一緒に行こう」とB君の肩に手をやり連れ立って1年生の昇降口に向かっていきました。「すごいですね。自然に寄り添うことができていました。大人が言うとB君も構えちゃうけど、子ども同士だと本当に自然に受け入れていました。」と話してくれました。

そうです。小学生、特に低学年の児童は子どもから教わる、子どもに教えることが自然にできます。小学校時代に、友だちからものを学ぶ、友だちにもものを教えるという経験を積むことは将来に向けて大切なことです。そこにも、同じ学齢の児童が集まって勉強するという小学校の存在意義があると思います。

人間の社会的人格の成熟には飛び級は有りません。友だちに教える、教わるというような経験をする中で学ぶものがあります。例えば成人して就職したとき職場では、仲間からものを学び、仲間にもものを教えることで構築していく人間関係があります。それができてこそ職場の同僚や上司と生き生きと交わることができるのです。ですから、社会人として協力しあいながら働いていくことができるかどうかは、どれだけ多くのことを友だちから学び、友だちに教える経験を小学校時代できたかにかかっています。優越感も劣等感もない小学生の時期に、自分の知らないことを知っている友だちに出会うことに喜びを感じ、自分にできないことができる友だちを、教えてできるようにしてあげることに喜びを感じるという経験。そういう経験をたくさん積むことで、みんなと協力して働く大人へと成長していきます。コロナ禍で子ども同士の関わりが難しい現状ですが、子どもが成人した先を見据えながら工夫して教育活動をしていきたいと考えています。

2001年5月1日にさいたま市が誕生しました。郷土である本市の歴史や文化に親しみ、市民としての一体感とまちづくりに自ら参画する意識を高め、魅力ある本市を将来にわたって創っていくことを期する日として、市制がスタートした5月1日を市民の日とする条例が制定されました。2001年から20年です。人間でいえばちょうど成人となる期間です。来月17日の講話朝会での「市民の日」の話を考えながら、子どもたちが成人になった時のことを想像しました。

さて、教育基本法には「第1条 教育は人格の完成を目指し、平和で民主的な国家及び社会の形成者として必要は資質を備えた心身ともに健康な国民の育成を期して行わなければならない」とあります。日進北小の子どもたちが成人となるために何をなさねばならないかどんな基礎を気付いておかなければならないかを今一度考えました。成人になるためにはアイデンティティの獲得が必要です。アイデンティティとは、自分はどんな人間なのか、他の人と何が違うのか、どういうところに、どういう人と共通点があつたりなかつたり、どういう個性、特性をもっているのか、自分はどんな能力を持っているのか、どんな弱点や欠点を持っているのか。こういうことを明確に意識すること。実感すること。自覚することです。そのためには

そういう生き方を、最も充実して体験するためには、友達との日々の生活の中で、互いに知っていることを教え、知らないことを学び合うことですが、それは遊び以外にはないでしょうね。子どもは友達との遊びに熱中しているとき、友達から何かを学ぶことが自然に、そして旺盛にできます。自分が知っている何かを知らない友達がいれば、自然に教えることができます。そして、教えることも教わることも大きな喜びなのです。

それをもとにして、私たちはどのような社会的役割を担っていこうかということを考え始めるわけです。どんな職業選択が可能かと考えます。自分の希望と実際の自分の素質、能力、個性とは必ずしも一致するものではありません。本当はこうなりたかったけど、これは自分には無理だ、ほかにできる人はたくさんいる。だから自分はこういう方に進路を選ぼう。そのもとになるのがアイデンティティです。

自分というものはこういう人間だということを、とても強く実感することが思春期の課題です。これがなかったらそれこそ社会的に存在して生きていくことはできないのです。自分は何をしていいかわからないので、引きこもりやフリーターになったりします。を持っているのかなお、令和3年度、4年度は5月1日が土日となるため、実際に学校が休業となるのは令和5年度からとなります。